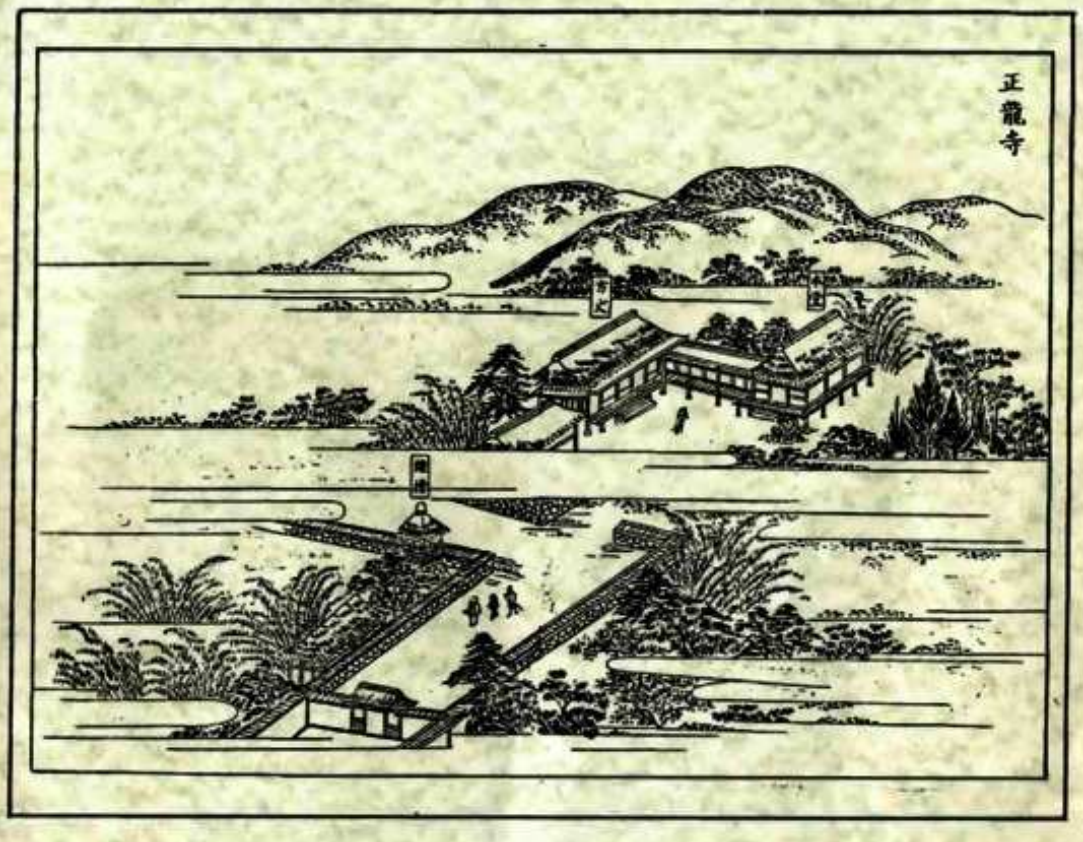
山川の文化財

第二集　正龍寺



鹿児島県揖宿郡山川町教育委員会

********** 目　　次 **********

発刊にあたって …… 1

一　正龍寺について …… 2

二　正龍寺に残る同寺関係文化財 …… 2

三　他所に残る同寺関係文化財 …… 4

四　その他の同寺関係文化財 …… 6

五　正龍寺の末寺 …… 7

六　正龍寺の由来 …… 7

七　正龍寺関係年代史 …… 10

八　正龍寺関係文化財地図 …… 12

編集後記 …… 13

編集委員名簿 …… 14

発刊にあたって

文化財は，祖先のたくましい創造力，たゆまざる努力によって生み育てられた，貴重な財産であります。

私たちは，これらの文化財を損傷したり破壊することなく，完全な姿で，次の世代に伝えてゆかなければなりません。

私たちの山川町でも，文化財保護条例が昭和47年に制定され，文化財保護審議会が発足いたしました。年々その保護管理と活用が図られております。

町教育委員会では，かっての文教の府であった正龍寺の由来を，広く町民に知っていただくために，本冊子を発刊いたしました。関係者の方々が，これによって文化財を愛する気持ちを改めて確認していただければ幸いです。

昭和56年3月11日

山川町教育委員会
教育長　久　保　市　夫

一　正龍寺について

正龍寺については，文献も少なく発見された墓碑類もごく一部にすぎないが，隣接地に徳雲庵・教主庵の両末寺が存在したこと，山川小学校保管の鬼瓦などから想像するに，その規模構造は相当大きなものであったろうと思われる。が，ただちにこれを想定することは極めて困難である。

しかし，現地調査の結果，正龍寺跡には住持の墓石六基，位牌一基その他の和尚等の墓石六基，地蔵菩薩坐像一基，正龍寺宝珠付角柱石塔婆一基（山川町文化財）の外，横井坂に龍頭石，座禅石等が残っている。

これらは逐年納骨堂が新設されつつある現状に鑑み，すでに山川町文化財指定の宝珠付角柱石塔婆を除き，破壊されるおそれがある。

二　正龍寺跡に残る同寺関係文化財

正龍寺は初代虎森和尚から三十二代約五百年に亘り，禅寺として同地に存在したが，現在残っている和尚等の墓碑は下記のとおりである。

記

㈠　前広済感應二十六世當山十四世愚山和尚

享保十六辛亥三月念五日示寂　　＜１７３１年＞

（在：㊐無縁墓地）

㈡　當山二十五世逸道俊和尚禅師

文化十一年甲戌八月二十四日　　＜１８１４年＞

（在：日高墓地左下）

法名　釈了佐　　行年七十一

外　薗　佐兵衛

明治三十三年旧十月廿一日

(三) 前住當山廿九世奥岳充和尚

天保四巳年十月二日示寂　　＜１８３３年＞

（在：故外薗為義氏が祭る木村重成一族と称する墓地）

(四) 前広済現正龍寺三十一世月宗和尚禅師

文久壬戌二月二十四日　　＜１８６２年＞

（在：墓石・正竜寺入口地蔵裏）
（在：位牌・金生町萩原熊男氏祖先の納骨堂）

(五) 中岩庸和尚禅師

延宝丙辰正月十三日　　＜１６７６年＞

（在：㊥無縁墓地）

(六) 毒屋宗香禅師　　（　〃　）

(七) 圓寂大圓知照禅師

寛保三戊十月十一日　　＜１７４３年＞

（在：㊥無縁墓地）

(八) 當山留岳和尚

宝暦元年　　＜１７５１年＞

（在：㊥無縁墓地）

(九) 東福第一座右山大寂公座元禅師

干時宝暦十二□□天五月十六日於京都寂

＜１７６２年＞

（在：㊥無縁墓地）

(十) 地蔵菩薩座像

寛政八丙辰年正月十三日□　　＜１７９６年＞

活道了快居士

（四角の山川石に地蔵菩薩像が載っている。（在：旧士族墓地の奥））

(十) 正龍寺宝珠付角柱石塔婆

永禄十年　　＜１５６７年＞

（山川町指定文化財　在：教主庵）

(十一) 前廣済當山十五世月岑沿禅師

時□享保八癸卯歳孟正初二日　　＜１７２３年＞

（在：菱田墓地内）

(十二) 雲　宗　塔

文政八乙酉　九月二十七日　　＜１８２５年＞

（在：菱田墓地内）

(十四) 當山十九世儀山律和尚禅師

宝暦九己卯　八月十二日　　＜１７５９年＞

（在：菱田墓地内）

三　他所に残る同寺関係文化財

(一) 仁王像二基

年代不詳

（安田幸三チ衛門清実居士という文字が向って左側の仁王像の背面に刻まれている。山川石。（在：現正龍寺正門））

(二) 薬師如来座像一基

天明八戊田孟冬吉辰　　＜１７８８年＞

（もともとこの薬師如来像は正龍寺跡南山手の小高いところに安置されており，これを先祖が信仰していたが福島富士弥氏の祖母が現在地に移したものである。砂岩石。
在：金生町七十二福島宅玄関石塀前）

像の背面に次の文字が刻まれている。

奉彫薬師如来一軀
□天明八戊田孟冬吉辰
薩叉山川正龍寺閑居宝門
玄参

(三) 位　牌

正龍寺前住実門真和尚禅師

寛政改元巳酉八月二十六日寂　　＜１７８９年＞

（西貞則氏が祖先から引き継いで今日まで仏壇において拝んできた。木製。
在：新生町六　西宅）

(四) 正龍寺鬼瓦一基

年代不詳

（半壊　山川石　保管：山川小）

(五) 正龍寺板碑一基

天文廿一年 壬子 霜月十一日 施主敬白　　＜1552年＞

板碑には次の文字が刻まれている。

日本薩𡸁山陽湊有老人稱利□了貞矣
預修善根久発大願力自読誦大乗妙
典一千部而今月今日伸供養者也
心并
賀雲妙慶天師預修善利読誦
金剛経七千餘巻月日伸供養伏
願現世安穏後生善処之故也
天文 壬子 霜月十一日 施主敬白

（山川石　　保管：山川小）

（注）　二の(一)(四)(十)の如く伊集院広済寺の和尚との交流があり，また二の(九)の和尚の如く京都で客死しているものがあるのを見るに，正龍寺の和尚等が京都に留学して勉学に励んだことがうかがわれる。

四　その他の同寺関係文化財

(一) 龍　頭　石

現在では横井坂井戸前の舗装道路下に埋まり，その一部が道路端に見られる。

大岩石で，その脇下から滝が落下し，僧侶達の修練の場でもあったと伝えられる。

(二) 座　禅　石

横井坂の道路中間附近に大きい平な石があって，その上に，昔，坊さんたちが座禅をして修行したと伝えられている。

五　正龍寺の末寺

(一) 山川町福元徳雲庵

(二)　〃　教主庵

(三)　〃　大山正護寺

(四)　〃　小川遊世庵

(五)　〃　成川梅月寺

六　正龍寺の由来

薩州山川海雲山正龍寺は，小松平重盛の末葉，山本何某が創建したものである。

「山元根占を領していた時，ある日，山川と根占との間に船を浮かべ魚釣をしていたところ，大きな鯛を釣りあげ，この腹の中から黄金が出てきた。山元は，これを基にして山川に正龍寺，根占に東漸寺を創建し，夫婦共，髪を切り，夫は円妙・夫人は知泉と号した。」

（根占名勝志）

現在，山元氏の子孫山元康平宅には，この夫婦円妙知泉の掛軸が残っているが，現存のものは昭和三十八年に複製したもので，昔のものと寸分違わないほどに出来ている。

昔のものは，今次大戦で防空壕で湿気のためぼろぼろになったため，鹿児島市田之浦の松井某先生にたのんで複写してもらい，同市仲町の今村表具師に表装し直してもらったものである。（山元氏言）

山元家には，祖父の代までは系図があったが，系図の紙を凧を作るのに使用して，系図の態をなさなくなったため現在はない（山元氏言)。依って系図によって円妙知泉をたしかめる方策はない。

従って，正龍寺の開基年月日も解明できない。

一方根占の東漸寺跡も，根占北の小高い山の麓にあるが，今は竹林と化し，同町文化財標柱と二三の和尚の墓が残っているのみで，これまた開基年月日は不詳である。

根占には，山本姓が十数軒あるが，その子孫と言われる元大根占郵便局長宅を訪ね，円妙知泉の位牌の所在，系図の有無をたずねたが，知らないとの返事があったので，ここでも円妙知泉を確認することはできなかった。

正竜寺は臨済宗で本尊は阿弥陀如来を奉じ，明徳元年（1,390）足利義満の時代，今から約六百年前，正龍寺中興の開山と称せられる虎森和尚が正龍寺に招へいされて，再建したといわれている。

虎森和尚は京都南禅寺の出身で，唐の国に渡り勉学せんと山川に来て便船を待っていたのであるが，便船に恵まれず，止むなく京都に帰ろうとしている際，知己の伊集院妙円寺（のちに鹿児島福昌寺）の禅師，石屋和尚が，この高僧を京都に帰すことを惜しみ，時の藩主第八代島津元久公を動かし，知行をさずけ，正龍寺を新たに造立して住持として迎え，爾来数百年の間，薩摩の文教の府として，また山川港の貿易港としての重要な役割を果たした。

島津元久公は，禅宗に帰依し，伊集院に広済寺，鹿児島に福昌寺を，山川に正龍寺を造建し，虎森和尚を住持にした。

豊臣秀吉は，文禄元年（1592）朝鮮出兵の折，軍資金と食糧の調査を諸国に命じた。この年，細川幽斉に命じ，薩摩の検地を行い，

多くの社寺が知領を没収されたが，細川幽斉は，正龍寺の知行は没収しなかった（三国名勝図会）。これは山川港が，重要な明との貿易港であるとともに，正龍寺がその業務を取扱っていたためと言われている。

明治二年（１８６９）　廃仏き釈により廃寺となった。

明治二十二年（１８８９）七月，真宗大谷派本願寺の説教所が正龍寺境内に創設。

明治三十九年（１８９６）一月二日，正龍寺を公称。

明治四十三年（１９１０）現在地，金生町七五に移転。木造平屋建。

昭和二十年（１９４５）八月十一日，戦災焼失。

昭和三十八年（１９６８）十二月，再建（鉄筋コンクリート）。

（注）

① 山川町入舟町山元睦子氏宅には，昔から伝承された金銀紙製の画額がある。円妙を現わしたと見られる大黒様が，鯛の魚を小脇に抱えて宝船を指さしている絵である。（作成年代不詳）

② 正龍寺は，伊集院広済寺の末寺である。

③ 虎森和尚は，京都五山南禅寺の塔頭で帰雲院の住持，蒙山和尚の弟子で，福昌寺の石屋和尚の師兄に当る。

④ 島津元久公が正龍寺を建立したのが，二十八才の時で，応永十八年（１４１１）八月，四十九才で没し福昌寺に葬り，その位牌は正龍寺に安置された。（山川郷土史）これにより，正龍寺再建が１３９０年であることと符合する。

⑤ 山本・山元姓は，根占・山川両地で使用されている。元来は同系の家族である。

七　正龍寺関係年代史

明徳元年	(1390)	正龍寺再建，虎森和尚住持となる。
応永十六年	(1409)	足利幕府，島津元久を薩摩の守護職に補す。
応永二十年	(1413)	虎森和尚，指宿大圓寺にて死去。
応仁元年	(1467)	応仁の乱。
文明五年	(1473)	桂庵，明より帰国したが，京に帰れず薩摩に来る。
文明十年	(1478)	桂庵わが国に初めて程朱の学を伝う。
明応元年	(1492)	桂庵の門下生京都で研讃。
文亀三年	(1502)	〃
永正元年	(1504)	郁芳（山川出身）正龍寺に来る。 桂庵の門下生，殆んど正龍寺に来る。
天文十八年	(1549)	ザビエル，山川港に来る。
天文廿一年	(1552)	正龍寺板碑建立。
永禄元年	(1558)	小川六地蔵幢建立
永禄十年	(1567)	正龍寺宝珠付角柱石塔婆建立。
天正四年	(1576)	成川板碑建立。
文禄元年	(1592)	豊臣秀吉朝鮮出兵。検地。細川幽斉，田禄を収入せず。寺禄は，百八石余りありという。
文禄三年	(1594)	藤原惺窩，當山門得和尚より四書訓読本家法和点を繕写す。

慶長十三年	（1609）	島津家久，琉球国を征す。山川港より軍船を出す。
元和四年	（1618）	慈眼公，山川に光臨。第八世文岳和尚即興。
寛保三年	（1643）	圓寂大圓知照禅師死去。
延宝四年	（1676）	中岩庸和尚禅師死去。
享保八年	（1723）	十五世月岑公禅師死去。
享保十六年	（1731）	十四世愚山和尚死去。
宝暦元年	（1751）	當山留岳和尚死去。
宝暦九年	（1759）	十九世儀山津和尚禅師死去。
宝暦十二年	（1762）	東福第一座右山大寂公座元禅師，京都において客死。
天明八年	（1788）	薬師如来座像建立。
寛政元年	（1789）	実門真和尚死去。
寛政八年	（1796）	地蔵菩薩座像，建立。
文化十一年	（1814）	廿五世逸道俊和尚禅師死去。
文政八年	（1825）	雲宗塔建立。
天保四年	（1833）	廿九世奥岳充和尚死去。
文久二年	（1862）	三十一世月宗和尚死去。
明治二年	（1869）	廃仏き釈。廃寺。

八　正龍寺関係文化財地図

1　十四愚山和尚（㊥無縁墓地）
2　中岩庸和尚禅師（　〃　）
3　毒屋宗香禅師（　〃　）
4　闃寂大闃知照禅師（　〃　）
5　留岳和尚（　〃　）
6　東福第一座右山大寂公座元禅師（　〃　）
7　二十五世逸道俊和尚禅師（日高墓地左下）
8　二十九世奥岳充和尚（故外薗為義氏が祭る木村重成一族と称する墓地）
9　三十一世月宗和尚禅師　墓石＝正龍寺入口の地蔵裏　位牌＝萩原熊男氏祖先納骨堂
10　地蔵菩薩座像（旧士族墓地奥）
11　正龍寺宝珠付角柱石塔婆（教主庵・山川町指定文化財）
12　前廣済當山十五世月岑沿禅師（菱田墓地）
13　雲　宗　塔（　〃　）
14　當山十九世儀山律和尚禅師（　〃　）
15　位牌＝正龍寺前住実門真和尚禅師（西貞則氏宅）
16　正龍寺鬼瓦（山川小学校）
17　正龍寺板碑（　〃　）
18　仁王像二基（現正龍寺正門）
19　薬師如来座像一基（福島富士弥氏宅玄関石塀前）
20　竜　頭　石（横井坂）
21　座　禅　石（　〃　）

☆☆☆☆☆☆☆ 編　集　後　記 ☆☆☆☆☆☆☆

○　昭和54年夏の暑い盛り，前園勇吉さんと正龍寺の古い墓石等をさがして歩いたり，根占に行って東漸寺跡その他を訪ねたり，正龍寺の調査に苦心したことが想い出される。しかし，廃仏き釈後百年も経た今となっては，これらの資料によって，その規模構造を想定することはむづかしい。もっと早く古老に聞いておけば良かったとくやまれてならない。（内田　記）

○　正龍寺に関しては，三国名勝図絵等にも，かなりくわしく記述されているが，この第二集では，主として，「現場」たる正龍寺跡ならびにその近辺に現存する文化財を中心に述べられている。写真その他によって，もう少しくわしくとも思われたが，時間と予算の制約された現在の状況では，いたしかたない。後日を期したい。（松下　記）

調査委員ならびに編集委員

内　田　潤　平

前　園　勇　吉

新　村　利　弘

松　下　尚　明

****

昭和56年3月20日

編集発行　　山川町教育委員会

印　　刷　　評価テスト
出版センター

（☎68－1584）

****